

平成 29 年度

第 2 回 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会

報告書

近江八幡市

目次

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 概要 | P 1 |
| 2. 委員からの意見及び対応方針 | P 2 |
| 3. 講評 | P 7 |

参考資料

1. 設置要綱
2. 委員名簿
3. 事業シート
4. 議事録

1.概要

1. 懇話会設置の趣旨

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき策定した近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関して広く意見を聴くため。

2. 日時：平成 30 年 3 月 20 日（火曜日） 13 時 30 分から 16 時 30 分

3. 場所：近江八幡市役所 4 階 第 3・4 委員会室

4. 対象事業（カッコ内は担当課）

事業シート No. 1	東近江地域広域婚活事業	（政策推進課）
事業シート No. 2	近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム 形成事業	（健康推進課）
事業シート No. 3	歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点 整備による地域活性化事業	（文化観光課）
事業シート No. 4	近江八幡ブルーツーリズムモデルツアー試行務	（文化観光課）
事業シート No. 5	インバウンド配信動画プロモーション業務	（文化観光課）
事業シート No. 6	近江八幡地域産品販売拡大計画策定業務	（文化観光課）
事業シート No. 7	沖島担い手交流プログラム	（生涯学習課・学校教育課）
事業シート No. 8	空き町家リノベーション事業	（商工労政課）
事業シート No. 9	八幡商人育成事業	（商工労政課）
事業シート No. 10	先進的農業者づくり塾事業	（農業振興課）
事業シート No. 11	未来づくりキャンパス事業	（政策推進課）
事業シート No. 12	安寧のまちづくり（CCRC）推進事業	（政策推進課）

5. 委員（敬称略・順不同）

秋村 田津夫	（近江八幡商工会議所 会頭）
城念 久子	（近江八幡市安寧のまちづくりプロデュース委員会 委員／オレガノ代表）
白須 正	（龍谷大学 政策学部 教授）※座長
遠藤 良則	（近江八幡金融協議会／滋賀銀行八幡支店 支店長）
土井 勉	（大阪大学 CO デザインセンター 特任教授）
吉田 正樹	（近江八幡市副市長）

2.委員からの意見及び対応方針

各事業に対する委員からの主な意見及び助言と、それに対する担当課の対応方針（平成30年5月時点）

(1) 事業シートNo.1 東近江地域広域婚活事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
人の出会いの場と位置づけ、カップル成立がゴールではなく、次の活動つながるように一層工夫されたい。	カップル成立は成婚に向けた第一歩であると認識しており、従来通りのアンケートに加え、成婚に向けたサポートが行える取組について検討します。
実施主体を婚活サポーターに移行していくことも考えられたい。	実施主体については、サポーターへの研修内容及び制度のあり方を含めて検討します。

(2) 事業シートNo.2 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
本事業で重要なのは「人」であり、ハードと両輪で回す必要がある。担い手となる健康サポーターにも、生きがいを与えることのできる取組とされたい。	健康サポーターが新施設で活躍できる機会や情報を随時提供していきます。また、活動状況を広く周知し、他のロールモデルとします。平成30年度に実施する人材育成事業の講師としても活躍いただく予定です。
地域経済の循環、地域課題の解決のためにも、健康未来食品の開発にあたっては、地場産品をうまく活用されたい。	健康な食生活は地産地消を原則として、地元農家からの購入を検討します。また、JAから購入する仕組みについても検討します。
社会保障費の抑制は事業の目的ではなく、結果として付いてくる効果であるべきである。掲げている目標（高齢化による社会保障費の抑制）と、効果（高齢者が健康でアクティブに生活できる環境や場作り）を逆に考えることを検討されたい。	目的表現を、高齢者が健康でアクティブに活躍できる情報発信や環境やづくりを推進することとし、健康寿命の延伸につなげ、医療費や介護費用を抑制することをめざします。

(3) 事業シートNo.3 歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業
担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
資料館はまちの記憶装置であるべきである。アーカイブ機能を持たせるなど、記憶として残すためのソフト面の整備を進められたい。	現在資料館では、八幡町を中心とした資料展示を行っています。今後アーカイブ機能については、可能性及び方法等を検討します。
市民がアイデンティティを持てることを目的として、名称は独自のものに改めることを検討されたい。	昭和44年の資料館開館以来、現在の名称で継続しており、市民の方々を初めとする市内外に現名称が定着していることから、名称の変更は慎重に検討します。
地域資源を活かすため、できる限り焦点を絞った施設内容とし、情報発信されたい。	常設として、八幡町、ヴォーリズ、水郷などとそれに関連した資料を中心に展示をしていますが、市内の資料館は当館だけであるため、市内一円の資料の展示を企画し、情報発信します。
メディアを利用した発信を含め、まちの魅力を伝えるための仕組作りや、プロモーション方法を検討されたい。	まちの魅力を伝えるための内容や方法について、地元有識者や資料館管理者と協議を重ねながら検討します。
市内に点在するヴォーリズ建築について、その関連性の紹介など、地域連携を深めるような取組に繋がられたい。	資料館を含め、市内のヴォーリズ建築について、展示、説明など、地域連携を深めるように検討します。

- (4) 事業シートNo.4 近江八幡ブルーツーリズムモデルツアー試行業務
 事業シートNo.5 インバウンド配信動画プロモーション業務
 事業シートNo.6 近江八幡地域産品販売拡大計画策定業務
 担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
サインの設置など、海外からの観光客への対応について、検証されたい。	インバウンド等の誘客促進や利便性、回遊性の向上を図るため、平成30年度に「インバウンド観光サイン調査分析業務（委託）」を実施し、市内の観光案内看板の設置内容について調査・検証を行うとともに、その他の受入環境整備に取り組みます。
既に課題はある程度明確になっており、事業者からの提言を待つまでもなく、スピード感を持って、できることから取り組まされたい。	平成30年度実施予定の「着地型体験ツアープラットフォーム策定業務（委託）」によるWebサイトにおいて、モデルツアーの紹介や旅行関連事業者への提案等に積極的に取り組みます。
地域産品が優先的に販売される、また結果として地域に還元される仕組みについて、その課題を明らかにし、有効な手法のアレンジを進められたい。	平成29年度実施の「地域産品の販売促進に関する調査」結果などから見える課題を検証します。それらの課題を市内生産者や事業者等と共有し、地元特産の付加価値をもつ地域産品の販売促進の手法について協議していきます。
地域産品には、安心して食べられるなどの付加価値を持たせる意識を持たれたい。	
観光滞留時間の延長、また地域産品の活用のためにも、「食べる」ことに着目したコース設定を検討してはどうか。	既設では、水郷めぐりでの船上の食事（近江牛・鶏肉等）があり、街並みなど風景を楽しむ観光に食（菓子を含む）を付加した周遊コースについて観光物産協会や飲食店事業者と協議・検討します。

- (5) 事業シートNo.7 沖島担い手交流プログラム
 担当課：生涯学習課・学校教育課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
参加した子ども達の体験を、更なる観光誘客に繋げるための検証を行い、次に活かされたい。	参加児童・生徒に対してアンケート等を実施し、その結果を検証します。 検証結果から島の魅力を活かした取組を計画します。
もっとメディアに取り上げてもらうことを検討されたい。	広報を通じて各メディアに取組の情報を発信します。 ZTV等の取材を受け、情報を発信します。

(6) 事業シートNo.8 空き町家リノベーション事業

担当課：商工労政課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
なぜ整備したのかという目的を再認識し、対象施設が様々な役割を持ち、活用方法が多方面に派生していくよう進められたい。	当初の目標としては、生業・交流作りとしていました。今後は、その目標は前提としつつも様々な活用方法を検証・検討します。
本事業（旧吉田邸）で終わりではなく、市内全域の空き町家活用に、対象を広げることを検討されたい。	空き家情報バンク（平成29年12月～）を設置し、町家だけでなく、全市的な空き家の利活用の促進を図ります。
大学の研究室など大学のプロジェクトや、高校生のチャレンジ拠点として活用するなどし、若い層への参加呼びかけを検討されたい。	長期的な利用方法も含めて、平成30年度は施設を稼働させながら、様々な可能性を検証します。

(7) 事業シートNo.9 八幡商人育成事業

担当課：商工労政課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
「八幡商人」というキーワードをきっちりと押さえたうえで、近江八幡市ならではの取組とされたい。	近江八幡市ならではの事業とするべく、今後も事業のブラッシュアップを図ります。
商工会議所や金融機関と連携し、創業支援にとどまらず、仲間づくりやその後の伴走型支援の充実に繋がられたい。	本事業だけでなく、創業支援に関しては、支援機関と連携を取っています。今後もその連携を強め、創業者の支援に当たります。

(8) 事業シートNo.10 先進的農業者づくり塾事業

担当課：農業振興課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
大学との連携による、新たな就農者募集等も検討されたい。	新たな就農者の確保を図るため、大学等との連携も含め、若年層への募集方法を検討します。
「新しい取組」は非常に重要なキーワードと捉え、他の分野（健康未来食品、地域産品など）と連携することで裾野を広げられたい。	農業は幅広い分野と関わる産業であることから、地方創生事業内だけではなく、幅広い事業との連携について検討を行い、本市農業の発展に繋がる取り組みを進めます。
農業が近江八幡市の重要な産業であることを認識し、他の分野との連携、農業を好きになってもらう取組を進められたい。	農業は本市の基幹産業であると考えており、地方創生事業だけではなく、他の事業でも、幅広い分野との連携を図り地域農業の担い手となる人材の育成を進めます。

(9) 事業シートNo.11 未来づくりキャンパス事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
事業目的は、地域のリーダー育成であり、近江八幡市を良くしていこうという気概のある人を集め、事業成果を地域に還元する仕組みを検討されたい。	まちづくり協議会をはじめとする地域活動団体において、既に課題や構想を有する方々への参加を呼びかけるなど、これまでのスタートアップ型から、事業を具現化するスキルアップ型プログラムへの転換を検討します。
他の人材育成事業との連携を図ることで、効果的に事業を進められたい。	他の人材育成事業とは対象が異なっていることから、直ちに事業の統合等を行うことは難しいが、人材募集や専門家招聘にあたっての情報・ノウハウ等の共有による連携を図ります。
成果発表、評価の場は人材育成の観点から非常に重要であり、提案で終わるのではなく、その成果をフォローしていかれたい。	今年度については、最終発表会に加え、中間発表会を行うことを検討します。 また、成果発表の場での講評・助言に加え、修了した塾生のフォローアップ体制を整え、アクションの継続と地域との関わりを持てる仕組みを構築します。

(10) 事業シートNo.12 安寧のまちづくり（CCRC）推進事業

担当課：政策推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
施設を整備するだけのCCRCが多い中で、地域との融合に留意し、地域に事業成果が還元される仕組みを構築されたい。	多様な住宅の供給、地域生活環境の整備、公共交通や歩行者環境整備等の総合的なまちづくり事業を展開することにより、多様な年齢・階層の市民の移住・帰還を進め、地域経済の活性化等につなげます。

3. 講評

平成 30 年 3 月 20 日に、平成 29 年度第 2 回近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会が開催された。

本会議は、近江八幡市総合戦略に係わる事業を評価・検証する場として設置されたものである。事業をより効果的に進めるためには、事後の評価・検証だけでなく、事業を実施するにあたって懇話会で意見を聞くことが必要であるということから、平成 29 年度事業については昨年 7 月に第 1 回懇話会が開催されている。本会議は、前回の懇話会での議論を踏まえたうえで平成 29 年度の事業成果を報告いただき、懇話会として事業を評価・検証するものである。

このため今回も、①地方創生推進交付金の対象である 9 事業、②地方創生拠点整備交付金の対象である 2 事業、そして③広域婚活事業、合わせて 12 事業について、それぞれの担当部署から事業シートに基づき、要点を整理した説明の後に質疑応答、意見交換を行い、委員から数多くの質問、指摘、意見が出された。また、最後に事業全体を通じて気付いたこと、感じたことに関して意見交換を行った。

事業シート No.1「東近江地域広域婚活事業」は、東近江地域の 2 市 2 町が共同で取り組み、縁結びサポーター研修会が実施されるなど、事業の工夫・改善がみられるが、人の出会いの場と位置づけ、カップル成立が次の活動につながるよう一層工夫するとともに、婚活の実施主体はサポーターに移行していくことも考えていく必要がある。

事業シート No.2「近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム形成事業」は、着実に事業が進んでおり、時代にあった取組として大きな期待が持てる。高齢者が健康でアクティブに暮らせるよう、ハード整備だけでなく、ソフト面での取組、とりわけ健康サポーターの役割が重要である。健康未来食品については、地場産品の活用に留意する必要がある。

事業シート No.3「歴史的建造物（市立資料館）を活用した観光拠点整備による地域活性化事業計画」は、市民がアイデンティティを感じるような施設になるためにもソフト事業が重要である。アーカイブ機能を持たせるなど、ソフトの整備により価値を継承していくことが大切で、その核としてヴォーリズ建築が考えられる。

事業シート No.4 から No.6 は、広域観光ブランディング推進事業に関することで、No.4「ブルーツーリズムモデルツアー施行業務」については、事業者の提言を待つまでもなく、スピード感を持って、できることから取り組み始める必要がある。また、サインの設置など海外観光客への対応も検証する必要がある。No.6「地域産品販売拡大計画策定業務」に関しても事業者任せではなく、政策的な課題を持って事業者にあたるのが大切である。近江八幡市内での滞留時間が短い原因に食事の場所が少ないことがあげられるが、近江八幡には魅力的な食材があり、この活用の視点が重要である。

事業シート No.7「沖島担い手プログラム」は、沖島の魅力を発信し、観光客誘致につなげる観光振興対策事業であり、実際に参加した生徒の感想や、入浴場所問題などの対策を考え、今後

に活かすことが大切である。

事業シートNo.8「空き町家リノベーション事業」は、ハード整備で終わりではなく、その活用が重要で、特に大学の研究室など大学のプロジェクトや高校生のチャレンジ拠点など、若い層の参加により新しい風が吹くことを期待する。

事業シートNo.9「八幡商人育成事業」は、八幡商人というキーワードをきっちりと押さえたうえで、商工会議所や金融機関と連携し、創業支援にとどまらず、仲間づくりやその後の伴走型支援の充実につなげていくことが大切である。

事業シートNo.10「先進的農業者づくり塾事業」では、農業が近江八幡市の重要な産業であることを認識し、農業を好きになってもらう必要がある。また、「新たな農業」も重要な切り口で、そのためには、他の事業や大学との連携などに留意した取組を進めてもらいたい。

事業シートNo.11「未来づくりキャンパス事業」は、事業の目的は地域リーダーの育成・創出であり、そのためにも近江八幡をよくしたいという気概のある人を集めることが大切である。また、人材育成は時間を要するが、成果発表は広く周知し、提案で終わるのではなく、その成果をフォローしていくことが大切である。

事業シートNo.12「安寧のまちづくり(CCRC)推進事業」では、施設を整備するだけのCCRCが多い中で、地域との融合に留意し、地域に事業成果が還元されるようなものにしていく必要がある。そのためにも、事業者の選定が重要な意味を持つ。

以上、各事業に対する委員会の指摘、意見を簡潔に整理したが、報告された事業に対し、各委員から多くの意見、指摘が出されるとともに、行政からも内容や考え方について説明が行われ、内容のある議論が交わされた。

最後に、事業全体を通じて、委員から次のような意見が出された。

- ・ このような第三者による評価の場は非常に重要で、出された意見に対して主体的に取り組んでいただきたい。
- ・ 事業の実施に当たっては、地産地消、域内循環ということ意識し、地域でうまく回す仕組みを考えてもらいたい。
- ・ 人材育成に関しては、参加者にも一定の負担を求めることが、よりモチベーションの高い方々の参加につながる。
- ・ 人間の基本は土とともにあり、農業は非常に重要。そのことを真剣に考え、地域を変えていってほしい。
- ・ 事業に関わる職員自身が、自らの事業を語れないといけない。そのためには、絶えずアンテナを張り、スキルを向上させる必要がある。

(総括)

地方創生に関する国の地方創生交付金をうまく活用し、また、昨年7月の第1回懇話会で出された指摘や意見を踏まえ、事業内容に工夫・改善を加えるなど「近江八幡市まち・人・しごと創生総合戦略」の推進に着実に取組まれている。今後は、事業の成果を高めるためことを意識し、可能な事業については、近江八幡市が主体性を発揮して取り組みスピードを上げるとともに、他の事業との連携を一層進めていくことを期待する。

近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会座長 白須 正